

福井県 コンクリート診断士会発足へ

北陸初 異業種が結集

26日に設立総会

福井県内のコンクリートに関する材料、調査、施工、試験会社などの有志が「福井県コンクリート診断士会」を発足させるにあたり、26日に県職員会館で設立総会を開く。同診断士団体の発足は北陸3県では初めて。発起人は福井宇部生コンクリートの石川裕夏常務取締役、メンテナン

調査設計の友竹博一技術部長、飛鳥建設北陸支店土木部の平井学技術担当部長、福井県生コンクリート工業組合中央試験場の山崎浩二次長の4人。社団法人日本コンクリート工学協会が認定する同診断士は、コンクリート構造物の劣化状態を正確に診断し、適切な維持管理を提案する役割を担う。現在、福井県内では14人が登録済み。しか

し、2001年にスタートした資格で歴史が浅いため、官公庁をはじめ社会に浸透していないのも事実。このような状況下、同会は診断士の社会的評価と地位の向上、診断技術の普及・向上を柱に活動していく。

あるという。あらゆる業種が所属する同会では、対象構造物に対していろいろな視点での診断が可能。また、会内においても異業種間の情報交換により、会員相互の技術向上が期待される。発起人代表の石川氏は「社会問題となっているコンクリートのひび割れや落下事故等に対応するため、診断士が活躍できる場を開拓したい」としている。